

RESEARCH TO REALITY

研究から現場へ：

MALARIA-LAMPが動かす世界マラリア対策

2025年、Malaria-LAMPは社会実装元年を迎えました。
日本発の科学技術は、
世界のマラリア対策にどう貢献できるのか。

World Malaria Report 2025の最新動向と、
ハイチ・ラオス・フィリピンでのフィールド応用事例。
最前線の報告とリアルな議論を、1時間に凝縮してお届けします。

未来を担う学生・若手研究者の参加を歓迎します。



 **20** MARCH
2026
 **18⁰⁰**
TO 19:00

 北里大学
相模原キャンパス
医学部 新M号館
M103講義室
(大会第3会場)

※現地対面開催のみ
(オンライン配信はありません)

SPEAKERS

長島美紀 (Malaria No More Japan理事)

「Malaria No Moreの新しい取り組み／World Malaria Report 2025総括」

渡辺 恵子 (栄研化学株式会社 販売推進3部1課)

「Malaria-LAMP社会実装元年に考える、日本発イノベーションの可能性」

狩野 繁之 (JIHS/NIGHM/DTM&M部長・MNMJ理事)

「Malaria-LAMP法のフィールド応用研究
ーハイチ、ラオス、フィリピンの事例」

モデレーター：狩野 繁之

世話人：
狩野 繁之(国立健康危機管理研究機構(JIHS)国立国際医療研究所
(NIGHM)熱帯医学・マラリア研究部(DTM&M)部長)
小林 潤(琉球大学大学院保健学研究科教授)